

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:2.

長期間の入院を余儀なくされた難治性瘻孔患者の外出を可能とした皮膚・排泄ケア認定看護師による看護実践効果と課題

上野 直美

# 長期間の入院を余儀なくされた難治性瘻孔患者の外出を可能とした 皮膚・排泄ケア認定看護師による看護実践効果と課題

旭川医科大学病院 6階東ナースステーション 上野 直美

## 【目的】

瘻孔からの多量な滲出液による頻回なガーゼ交換とドレーン管理により、QOLに障害をきたしていた難治性瘻孔患者が、皮膚・排泄ケア認定看護師(以下WOCN)による創管理により、短い準備期間で外出を実現できた看護実践効果と課題を明らかにする。

## 【方法】

難治性瘻孔のため入院していた60歳代女性を対象とし事例研究とした。WOCNの介入期間を〈瘻孔管理困難期(困難期)〉〈瘻孔管理安定期(安定期)〉〈外出期〉に分け分析した。研究者の所属する機関の倫理委員会による承認を得た。

## 【結果】

〈困難期〉は、睡眠困難・体動制限・皮膚障害を問題とし、ストーマ装具によるパウチングを行った。経腸栄養により排泄が増加し、面板の漏れをきたしたため、栄養調整を行った。〈安定期〉は、5日毎の創処置が可能となったが、複雑な創処置方法の統一に向け、スタッフ指導を継続した。パウチングにより患者の活動範囲が拡大したため、医師に外出を提案した。〈外出期〉は、医師との合同カンファレンスで患者目標の共有を図り、外出への問題点と介入内容を整理した。患者はセルフケア獲得に意欲を示し、2日後に外出が実現した。患者は妻役割を果たせたことに満足感を得ていた。

## 【考察】

〈困難期〉は、創管理の目標を明確にし、医師に提案したことが、早期の創管理方法の確立となった。〈安定期〉は、統一した創管理が患者に安心感をもたらし、外出という新たな目標を見出すことができた。〈外出期〉は、カンファレンスでの情報共有が統一した看護介入を可能とし、短期間での外出実現となった。患者の満足感・外出の成功体験が、外出を継続する自信につながっていた。

## 【結論】

WOCNによる、創管理の問題点を明確化した適切な創管理体制の構築、医療者間で情報共有した管理の視点の統一化は、患者のQOLを高めた創管理を実現できた。今後も患者の望む生活を家族にも視点を広げ支える事が課題である。